

- (乔莉は承諾をし、立ち上がると、休憩室へと足を運ばせた。そしてヨーグルトを手に取ろうとすると、云海がちょうどパンをほうばっているのを目にした。彼は「ハイ、安妮、おはよう」と挨拶をした。)

- (もしもし、一帆、あなたのお母さんが体調を崩してね、いま病院にいるの。大したことはないわ、ただちょっと熱があるの、ちょうど点滴をしているところよ。)

(36) トル, ~ガ ~ヲ 存在スル ~ガ ~ニ
在' [秀蓮, 秀蓮的卧室, 睡' (秀蓮, 觉) & 在' {睡' (秀蓮, 觉), 秀蓮的卧室}]
アル ~ガ ~ニオイテ ~トイウ様態ニ

次に(34)の“却看见云海正在吃面包”における“在”の目的語について考えてみると、ここでは前に“走到休息间”があるので、“云海正在吃面包”の出来事地点は“休息间”であると見なすことが可能である。そのため論理式は以下のようになる。

- “吃’(云海, 面包)”が「云海がパンを食べる」という意味を, “在’{吃’(云海, 面包), 休息间}”が「それ(云海がパンを食べる)が休憩室に存在する」という意味を, “在’[云海, 休息间, 吃’(云海, 面包)&在’{吃’(云海, 面包), 休息间}]”が「云海が, 休憩室において, 云海がパンを食べ、かつそれ(云海がパンを食べる)が休憩室に存在するという様態にある」という意を表している。

27

“現在在醫院呢”の“醫院”であると理解できるので、

- (38) スル ～ガ ～ヲ 存在スル ～ガ ～ニ
 在' [你妈妈, 医院, 打' (你妈妈, 点滴) & 在' {打' (你妈妈, 点滴), 医院}]
 アル ～ガ ～ニオイテ ～トイウ様態ニ

といった論理式を構成することになる。この式は“打' (你妈妈, 点滴)”が「あなたのお母さんが点滴をする」という意味を表し, “在' {打' (你妈妈, 点滴), 医院}”が「それ(あなたのお母さんが点滴をする)が病院に存在する」という意味を表し, “在' [你妈妈, 医院, 打' (你妈妈, 点滴)&在' {打' (你妈妈, 点滴), 医院}]”が「あなたのお母さんが, 病院において, あなたのお母さんが点滴をし、かつそれ(あなたのお母さんが点滴をする)が病院に存在するという様態にある」という意を表している。

あと二つ似た例を挙げておこう。

- (39) 今天经过珠宝店的时候, 看到你正在卖这条项链, 我就知道你一定是在为皓天凑医药费呢。(テレビドラマ《夏家三千金》第34話)

(今日、宝石店を通りかかったときに、あなたが丁度このネックレスを売っているのを見たの。知っているわ、皓天のために医療費を集めているんでしょう。)

- (40) A: 这屋子里在干什么呢?

B: 范伯伯, 我爸正在打光汉呢。(テレビドラマ《范府大院》第25話)

(A: 「その部屋の中で何をやっているんだ?」)

(B: 「范さん、僕の父が光汉をお仕置きしているのです。」)

(39)の“你正在卖这条项链”は“在”の目的語が生起していないが、前に“今天经过珠宝店的时候”という命題表現があるので、“在”の目的語は“珠宝店”である、という判断を下しえる。故に論理式は下記の如く表記できる。

- (41) 売ル ～ガ ～ヲ 存在スル ～ガ ～ニ
 在' [你, 珠宝店, 卖' (你, 这条项链)&在' {卖' (你, 这条项链), 珠宝店}]
 アル ～ガ ～ニオイテ ～トイウ様態ニ

この論理式は“卖' (你, 这条项链)”が「あなたがこのネックレスを売る」という意味を示し, “在' {卖' (你, 这条项链), 珠宝店}”が「それ(あなたがこのネックレスを売る)が宝石店に存在する」という意味を示している。そして式全体である“在' [你, 珠宝店, 卖' (你, 这条项链)&在' {卖' (你, 这条项链), 珠宝店}]”は「あなたが, 宝石店において, あなたがこのネックレスを売り、かつそれ(あなたがこのネックレスを売る)が宝石店に存在するという様態にある」という意を表している。

(40)の文は、最初に“这屋子里在干什么呢”という文があるので、この文の回答である“范伯伯, 我爸正在打光汉呢”の“我爸打光汉”という出来事は“屋子”

において行われていると推測することができる。そのため論理式は次のようになる。

- (42) オ仕置キスル ～ガ ～ヲ 存在スル ～ガ ～ニ
在' [我爸, 屋子里, 打' (我爸, 光汉) & 在' {打' (我爸, 光汉), 屋子里}]
アル ～ガ ～ニオイテ ～トイウ様態ニ

(42)は“打' (我爸, 光汉)”が「僕の父が光汉をお仕置きする」という意味を表し, “在' {打' (我爸, 光汉), 屋子里}”が「それ(僕の父が光汉をお仕置きする)が部屋に存在する」という意味を表し, “在' [我爸, 屋子里, 打' (我爸, 光汉)& 在' {打' (我爸, 光汉), 屋子里}]”が「僕の父が, 部屋において, 僕の父が光汉をお仕置きし、かつそれ(僕の父が光汉をお仕置きする)が部屋に存在するという様態にある」という意を表している。

そこで, 以下の用例を見たときに疑問が生じるかと思われる。

- (43) 我在打车! (テレビドラマ《张小五的春天》第2話)

(私はタクシーを拾っているのよ!)

- (44) A: 在等我?

B: 嗯, 刚才吃夜宵的时候, 看到你们科定的饭盒上有你的名字, 所以就稍微多等了一小会儿。(テレビドラマ《再婚进行时》第14話)

(A: 「あなた私を待っているの?」)

(B: 「うん、さっき夜食をとるときにあなた達が注文した弁当ケースにあなたの名前があったのを見たの、だから、ちょっとだけ長めに待っていたのよ。」)

- (45) 喂, 莫愁啊, 我是姐姐, 我看到了那个报纸了, 我想跟你说两句, 喂, 喂, 在听吗? (テレビドラマ《京华烟云》第32話)

(もしもし、莫愁、お姉ちゃんよ、あの新聞を見たわ、ちょっと話があるんだけど、もしもし、聞いてるかしら?)

(43)、(44)、(45)はいずれも“在”の後方に目的語が生起しておらず。しかも前後の文脈からも出来事の発生地点を推測することができない。しかし、(43)の例は、引用先であるテレビドラマ《张小五的春天》によると、この場面は酒に酔った発話者が一人でタクシーを拾っている所である。故に“我在打车”の出来事地点は、発話者が存在している一つの場所に限定されるので、既知の情報として“在”の目的語が省略されたと解釈できる。よって論理式に示すと下記のように分析できる。

- (46) 拾ウ ～ガ ～ヲ 存在スル ～ガ ～ニ
在' [我, 这儿, 打' (我, 车) & 在' {打' (我, 车), 这儿}]
アル ～ガ ～ニオイテ ～トイウ様態ニ

この式は、まず“打’（我，車）”が「私がタクシーを拾う」という意味を表している。次に“在’{打’（我，車），这儿}”が「それ（私がタクシーを拾う）がここに存在する」という意味を表している。そして式全体となる“在’[我，这儿，打’（我，車）&在’{打’（我，車），这儿}]”が「私が，ここにおいて，私がタクシーを拾い、かつそれ（私がタクシーを拾う）がここに存在するという様態にある」という意を表している。

また(44)の“在等我?”では、一見“等”がどこで生じているのかが不明だが、《再婚进行时》を見ると、発話時点の一か所で行われていることが分かるが故、既知の情報として“在”の目的語が省略されたと理解できる。故に“在等我”は「あなたが，ここにおいて，私を待っている」という意を包摂していると解するので、

(47) 待ツ ～ガ ～ヲ 存在スル ～ガ ～ニ

在’[你，这儿，等’（你，我） & 在’{等’（你，我），这儿}]

アル ～ガ ～ニオイテ ～トイウ様態ニ

といった論理式が完成する。つまり“等’（你，我）”が「あなたが私を待つ」という意味を表し，“在’{等’（你，我），这儿}”が「それ（あなたが私を待つ）がここに存在する」という意味を表し，“在’[你，这儿，等’（你，我）&在’{等’（你，我），这儿}]”が「あなたが，ここにおいて，あなたが私を待ち、かつそれ（あなたが私を待つ）がここに存在するという様態にある」という意を表している。

そして、(45)の“在听吗”は《京华烟云》を見ると、発話者はすでに相手がどこで電話をしているのかを理解している、ということが看取できるので、特定の一か所で“听”をしていることが分かる。故に“在”の後方の目的語を省略することができたと解しえる。これも論理式を使って記してみよう。

(48) スル ～ガ ～ヲ 存在スル ～ガ ～ニ

在’【你，那儿，听’{你，说’（我，话）}&在’[听’{你，说’（我，话）}，那儿】】

キク ～ガ ～ヲ

アル ～ガ ～ニオイテ ～トイウ様態ニ

“说’（我，话）”が「私が話をする」という意味を，“听’{你，说’（我，话）}”が「あなたがそれ（私が話をする）を聞く」という意を，そして“在’[听’{你，说’（我，话）}，那儿]”が「それ（あなたが私が話をするのを聞く）があそこに存在する」という意味を表している。最後に式全体である“在’【你，那儿，听’{你，说’（我，话）}&在’[听’{你，说’（我，话）}，那儿】】”の読みは「あなたが，あそこにおいて，あなたが私が話をするのを聞き、かつそれ（あなたが私が話をするのを聞く）があそこに存在するという様態にある」となる。

次節では、出来事地点が複数に及ぶことにより、出来事の発生地点を特定化することができず、目的語が省略された“在”構文について検討したい。

2.2 出来事地点が特定化できずに目的語が省略された“在”構文

まず以下の例について考えてみよう。

(49) A: 红玉, 我记得我出国留学前, 你就在看红楼梦, 现在还在看呀?

B: 我百看不厌, 我最喜欢林黛玉了。(テレビドラマ《京华烟云》第17話)

(A: 「红玉、僕が海外留学する前から、君は紅樓夢を読んでいたと思うんだけど、今もまだ読んでいるのかい?」)

(B: 「何度読んでも飽きないわ。林黛玉が一番好きなの。」)

ここでの考察対象は“现在还在看呀”における“在”である。なお“在”に焦点を当てた論考にするため、便宜を図って“现在还在看呀”を“红玉在看红楼梦”という命題表現に変換して考察を進めることにする。この“红玉在看红楼梦”は複数の地点で何度も行われ、出来事地点を一つに限定させる必要がなくなったが故、“在”の後の目的語が省略されたと考えられる。その根拠は以下の四つである。

第一に、ドラマ《京华烟云》を見ると、(49)の場面において、“红玉”は実際に“红楼梦”を手にとって読むという行為を行っていないからある。

第二としては、“我记得我出国留学前, 你就在看红楼梦”や“现在还在看呀”における副詞の“还”, 更には“我百看不厌”などの表現から, “红玉在看红楼梦”が繰り返し行われていることが分かるためである。

そして三つ目の根拠は、ドラマ《京华烟云》には、(49)のシーン以外においても“红玉在看红楼梦”の多発性を看取できる文が発話されるからである。以下それらの例をあげよう。まず(50)を見られたい。

(50) A: 红玉身子这么淡薄, 是不是病了?

B: 每年的春秋两季呢, 她都会病上几回, 去年春天啊, 她在床上躺了一个多月, 可她都不肯休息, 整夜整夜地看红楼梦。(テレビドラマ《京华烟云》第16話)

(A: 「红玉の身体があんなにも細いのは病気だからかな?」)

(B: 「毎年春と秋に何度か体を壊して、去年の春、彼女は床で一カ月余りも横たわっていたの。でも、決して休もうとはせずに、毎晩のように紅樓夢を読んでいたわ。」)

(50)における“整夜整夜地看红楼梦”は、「毎晩のように紅樓夢を読む」という意である。故に, “红玉”が飽きることなく何度も“红楼梦”を見ていたと理解することができる。続けて(51)の例も見られたい。この場面からも“红玉”が如何に“红楼梦”を愛読しているのかが窺える。

(51) A: 红玉, 这红楼梦你看过多少遍了?

B: 不多, 也就二十几遍吧。可我每一次看完, 都有不同的感受。(テレビドラマ《京华烟云》第16話)

(A:「紅玉、この紅樓夢の本、どのくらい見たの?」)

(B:「多くはないわ、せいぜい二十回くらいかしら。でも毎回読み終えるたびに違った感銘を受けるの。」)

(51)では発話者Bが“紅玉”であり、“不多，也就二十几遍吧。可我每一次看完，都有不同的感受”と答えていることから、彼女の“紅樓夢”に対する熱狂ぶりが察しえる。また、発話者Aが“这紅樓夢你看过多少遍了?”といった質問をしていることから、“紅玉”が“紅樓夢”を飽きることなく何度も読み続けていることを推測しえる。

従って(50)、(51)の二例からも“紅玉在看紅樓夢”という出来事が幾度となく発生していることが明晰となった。

さて、“紅玉在看紅樓夢”があらゆる場所において何度も行われていることを示す第四の根拠は、ドラマ《京華烟云》の第30話から看取しえる。この場面においても“紅玉”は“紅樓夢”を読み、かつそれを大邸宅の庭園において、泰然と歩きながら行っている。従って“紅玉在看紅樓夢”の出来事地点が一つの場所に限定されていない、ということのを改めて理解することができる。

以上の四つの理由により、“紅玉在看紅樓夢”が様々な所で発生していることが判然とした。故に“現在还在看呀”における“在”の目的語は出来事の発生地点を指定することができず省略されたと見なしうる。では“紅玉在看紅樓夢”を論理式で表してみよう。

(52) 読ム ~ガ ~ヲ 存在スル ~ガ ~ニ

在' [紅玉, ϕ , 看' (紅玉, 紅樓夢)&在' {看' (紅玉, 紅樓夢), ϕ }]

アル ~ガ ~ニオイテ ~トイウ様態ニ

この式は、まず“看' (紅玉, 紅樓夢)”が「紅玉が紅樓夢を読む」という意味を表している。次に“在' {看' (紅玉, 紅樓夢), ϕ }”が「それ(紅玉が紅樓夢を読む)がある場所に存在する」という意味を表している。“ ϕ ”は「ファイ」と読み、不確定の場所を指示している。そして(52)全体の“在' [紅玉, ϕ , 看' (紅玉, 紅樓夢)&在' {看' (紅玉, 紅樓夢), ϕ }]”は「紅玉が、ある場所において、紅玉が紅樓夢を読み、かつそれ(紅玉が紅樓夢を読む)がある場所に存在するという様態にある」という意を表している。

留意されたいことは、ある対象の特定化が行えず目的語が生起しない現象は他の構文においても存在する、ということである。そこで“被”構文が生起した文を二例見られたい。

(53) A: 静宜，好点儿了吗？

B: 好多了，谢谢你。

A: 到底怎么回事儿啊？

B: 我被关到电梯里了。(テレビドラマ《女人的颜色》第67話)

(A:「静宜、少しは良くなった?」)

(B:「だいぶ良くなったわ、ありがとう。」)

(A:「一体どうしたの?」)

(B:「誰かのせいでエレベーターに閉じ込められたの。」)

“我被关到电梯里了”における“被”の後には目的語が生起していない。それは何故だろうか。というのは、発話者Bである“静宜”は誰によって“关在电梯里”ということを経験したのかが分からなかったからである。これは(53)の例の引用先であるドラマ《女人的颜色》を見ると判然とする。この場面は、発話者Bの“静宜”が閉塞症であることを知る友人が、愛人を奪われた恨みを果たすため、ひそかに発話者Bの“静宜”を特別な操作によってエレベーターの中に閉じ込めてしまう。だが幸いにも“静宜”は病院に運ばれ一命を取りとめるのである。従って、“被”の後方に生起するはずの目的語が特定化できず、省略されたと理解できるので、以下のような論理式が連想しうる。

(54) 閉ジ込メル ～ガ ～ヲ 到ル ～ガ ～ニ

被' {我, ϕ , 关' (ϕ , 我) & 到' (我, 电梯里)}

被ル ～ガ ～カラ ～トイウコトヲ

(54)の論理式は“关' (ϕ , 我)”が「誰かが私を閉じ込める」という意味を表し、“到' (我, 电梯里)”が「私がエレベーターに到る」という意味を表し、“被' {我, ϕ , 关' (ϕ , 我)&到' (我, 电梯里)}”が「私が、誰かから、誰かが私を閉じ込め、かつ私がエレベーターに到るということを被る」という意を表している。

(55) 她一定在学声乐的, 她的才能是不会被埋没的。(テレビドラマ《花非花雾非雾》第22話)

(彼女はきっと声楽を学んでいるはずよ、彼女の才能は埋もれるはずがないわ。)

ドラマ《花非花雾非雾》によると、この文は“她”を長年探し続けている妹が発話したものである。しかし姉の消息はほとんど得られずにいた。故に、姉の才能を潰した人物を表現することは不可能であり、かつ必要のないことなので、“被”の後方の目的語が省略されたと解しうる。よってこの文の論理式は、

(56) 埋メル ～ガ ～ヲ 到ル ～ガ ～ニ

被' [她的才能, ϕ , 埋没' (ϕ , 她的才能)&到' {埋没' (ϕ , 她的才能), 她的才能}]

被ル ～ガ ～カラ ～トイウコトヲ

となる。“埋没' (ϕ , 她的才能)”が「誰かが彼女の才能を埋める」という意味を、“到' {埋没' (ϕ , 她的才能), 她的才能}”が「それ(誰かが彼女の才能を埋める)が彼女の才能に到る」という意味を、“被' [她的才能, ϕ , 埋没' (ϕ , 她的才能)&到' {埋没' (ϕ , 她的才能), 她的才能}]”が「彼女の才能が、誰かから、誰かが彼

女の才能を埋め、かつそれ(誰かが彼女の才能を埋める)が彼女の才能に到るということを被る」という意を表している。

さて、再び、出来事地点が複数に及ぶため“在”の目的語が省略された例を挙げることにする。それは以下の三例である。

(57) 现在他们到处在抓我。(テレビドラマ《范府大院》第22話)

(いま彼らはあちこちで俺を捕まえようとしている。)

(58) 这是世界上现在最风靡的一个舞蹈，全世界人都在跳。(テレビドラマ《咱们结婚吧》第20話)

(これはいま世界で一番旋風を巻き起こしているダンスなんだ、世界中の人がみな踊っているんだ。)

(59) 他倾耳细听，街上没有一点声音。那最常听到的电车铃声，与小贩的呼声，今天都一律停止。北平是在悲泣！(小説《四世同堂》45頁)

(彼が耳を澄ませると、街道は静寂しきっている。あのいちばん耳馴染みなトロリーバスの鈴の音と物売りの掛け声は、いま全てピッタリと止んでいる。北平が慟哭しているのだ！)

(57)では“他们”と“到处”が生起しているが故，“抓我”があらゆる場所において行われていることが想像できる。よって，“他们在抓我”の出来事地点を特定化することができず，“在”の後方の目的語が省略されたと推測することができる。念のためここでも論理式を運用して解析する。

(60) 捕マエル ～ガ ～ヲ 存在スル ～ガ ～ニ

在' [他们, 到处, 抓' (他们, 我) & 在' {抓' (他们, 我), 到处}]

アル ～ガ ～ニオイテ ～トイウ様態ニ

この式は、まず“抓' (他们, 我)”が「彼らが俺を捕まえる」という意味を表し、次に“在' {抓' (他们, 我), 到处}”が「それ(彼らが俺を捕まえる)があちこちに存在する」という意味を示している。そして式全体である“在' [他们, 到处, 抓' (他们, 我)&在' {抓' (他们, 我), 到处}]”の意味は「彼らが、あちこちにおいて、彼らが俺を捕まえ、かつそれ(彼らが俺を捕まえる)があちこちに存在するという状態にある」と読む。

(58)の“全世界人都在跳”では、“全世界人都”によって、“跳”という出来事が複数存在していることが保証されるので、特別“跳”の発生地点を定める必要がなくなり、“在”の目的語が省略されたと判断しえる。そのため論理式で表すと下記の(61)のようになる。

(61) 踊ル ～ガ 存在スル ～ガ ～ニ

在' [全世界人, φ, 跳' (全世界人)&在' {跳' (全世界人), φ}]

アル ～ガ ～ニオイテ ～トイウ様態ニ

“跳’ (全世界人)” が「世界中の人が踊る」という意を, “在’ {跳’ (全世界人), ϕ }” が「それ(世界中の人が踊る)がある場所に存在する」という意を, そして “在’ [全世界人, ϕ , 跳’ (全世界人)&在’ {跳’ (全世界人), ϕ }]” が「世界中の人が, ある場所において, 世界中の人が踊り、かつそれ(世界中の人が踊る)がある場所に存在するという様態にある」という意を表現している。

さて, (59)の“北平是在悲泣”においては, “北平”に含まれる複数の場所概念によって, 目的語が“在”に後続していないと考えられる。そこで“那最常听到的电车铃声, 与小贩的呼声,”に留意されたい。これは北平の本来のあるべき平和な情景を描写している。しかし, “今天都一律停止”により, この時, その普段のあるべき北平の活気が全て失われていることが分かる。即ち, “北平”に存在するさまざまなものから感じ取れる活気のなさが“北平是在悲泣”を意味しているのである。そのため, “悲泣”の出来事地点をわざわざ一つずつ表現する必要はないと見なし“在”の目的語が省略されたと理解できる。よって論理式を用いると,

(62) 働哭スル ～ガ 存在スル ～ガ ～ニ

在’ [北平, ϕ , 哭泣’ (北平)&在’ {哭泣’ (北平), ϕ }]

アル ～ガ ～ニオイテ ～トイウ様態ニ

となる。この式は, “哭泣’ (北平)” が「北平が働哭する」という意味を表し, “在’ {哭泣’ (北平), ϕ }” が「それ(北平が働哭する)がある場所に存在する」という意味を表し, “在’ [北平, ϕ , 哭泣’ (北平)&在’ {哭泣’ (北平), ϕ }]” が「北平が, ある場所において, 北平が働哭し、かつそれ(北平が働哭する)がある場所に存在するという様態にある」という意を表している。

以上から, “在”に後続して出来事の存在場所を示す成分は, 出来事の発生日点が多数に及ぶと, 出来事の発生日点の特定化が困難となるが故, 省略されることが分かった。

次の節では目的語が生起した“在”構文について論じることにした。

2.3 目的語が生起した“在”構文

ここでは如何なる場合に“在”の目的語が生起するのかを考えてみたい。以下四つの例を挙げる。まず(63)の例を見られたい。

(63) 快点儿收拾啊, 我在楼下等你。(テレビドラマ《等待绽放》第30話)

(早く片付けてね、下で待っているわ。)

ここでは“在”の後に“楼下”が生起している。なぜなら, 引用先のドラマ《等待绽放》から看取できるように, 発話者は, いま居る場所とは異なった所で“等你”が存在することを相手に伝えようとしたからである。従って論理式を用いると,

(64) 待ッ ～ガ ～ヲ 存在スル ～ガ ～ニ

在' [我, 楼下, 等' (我, 你) & 在' {等' (我, 你), 楼下}]

アル ～ガ ～ニオイテ ～トイウ様態ニ

と解析できる。この式は“等' (我, 你)”が「私があなたを待つ」という意を, “在' {等' (我, 你), 楼下}”が「それ(私があなたを待つ)が下に存在する」という意を, “在' [我, 楼下, 等' (我, 你)&在' {等' (我, 你), 楼下}]”が「私が, 下において, 私があなたを待ち、かつそれ(私があなたを待つ)が下に存在するという様態にある」という意を表している。

逆に出来事の存在場所を発話の地点に固定させたい場合には次のような表現をする必要がある。

(65) “你等一下, 我去跟冯超讲一下。”她转身向大厅里跑, 跑了两步, 又回过头叮嘱他, “你在这等我啊, 不要跑了, 我去跟他讲一下就回来。”她看见他点头了, 才放心地向大厅跑去。(小説《致命的温柔》95 頁)

(「ちょっと待っていて、冯超と話をしにいつてくるから。」彼女は身を翻して大広間へと駆けた。ところが、数歩足を進めると、再度振り返って彼に言い聞かせた。「ここで待っていてね。いなくならないでよ、彼とちょっと話しをしたらすぐ戻って来るから。」そして彼が頷く姿を確認すると、安心した様子で大広間へと駆けて行った。)

二行目の“你在这等我啊”における“在”の後ろには近方を指示する“这”が目的語として生起している。というのは、この場面は“回过头叮嘱他”、“不要跑了, 我去跟他讲一下就回来”、“她看见他点头了, 才放心地向大厅跑去”という命題表現から看取できるように, “你在这等我啊”と発話した人物は, 相手に対して, 発話地点に留まって自分のことを待っていて欲しい, と強く望んでいるのである。これも論理式で表現しておきたい。

(66) 待ッ ～ガ ～ヲ 存在スル ～ガ ～ニ

在' [你, 这, 等' (你, 我) & 在' {等' (你, 我), 这}]

アル ～ガ ～ニオイテ ～トイウ様態ニ

この式は“等' (你, 我)”が「あなたが私を待つ」という意を表し, “在' {等' (你, 我), 这}”が「それ(あなたが私を待つ)がここに存在する」という意を表し, “在' [你, 这, 等' (你, 我)&在' {等' (你, 我), 这}]”が「あなたが, ここにおいて, あなたが私を待ち、かつそれ(あなたが私を待つ)がここに存在するという様態にある」という意味を表している。

また, “这儿”とは反対に, 遠くで存在している出来事を指示する場合には“那儿”を用いて,

(67) 就是因为不贵啊, 我们才买了这些东西回来。很多人都在那儿排队啊, 我们也排了很久, 所以啊, 更要多买点儿回来。(テレビドラマ《来不及说我爱你

你》第 19 話)

といった文を作ることができる。“很多人都在那儿排队啊”(たくさんの人があそこで並んでいます)は“在”の後方に“那儿”が生起しているので、“排队”が発話者から遠方において存在していると推測することができる。実際に、ドラマ《来不及说我爱你》を確認するとその距離を感じとることができる。故にこの文を論理式で示すと以下のように表記する必要がある。

- (68) 並ブ ～ガ 存在スル ～ガ ～ニ
 在’[很多人, 那儿, 排队’(很多人)&在’{排队’(很多人), 那儿}]
 アル ～ガ ～ニオイテ ～トイウ様態ニ

この論理式は“排队’(很多人)”が「たくさんの人が並ぶ」という意味を表している。次に“在’{排队’(很多人), 那儿}”は「それ(たくさんの人が並ぶ)があそこに存在する」という意味を表している。式全体である“在’[很多人, 那儿, 排队’(很多人)&在’{排队’(很多人), 那儿}]”は「たくさんの人が、あそこにおいて、たくさんの人が並び、かつそれ(たくさんの人が並ぶ)があそこに存在するという様態にある」といった意を示している。

そこで興味深いことは、たとえ発話者の傍で出来事が[進行]していても、発話者が疎遠に感じる場合は“这儿”を使わず“那儿”を使って、

- (69) 丁香, 你知道吗, 世界上最遥远的距离, 不是你在天涯我在海角, 而是我站在你旁边, 你却在那儿玩儿手机。(テレビドラマ《北京青年》第 8 話)
(丁香、知っているかい、世界で最も遠い距離って、君が天にいて僕が海にいたようなものじゃないんだ。それは僕が君の横で立っているのに君が携帯をいじっていることなんだ。)

とすることができることである。ここでの“那儿”は発話者と出来事の間における空間的な距離を指示しているわけではない、と考えられる。それは、ドラマ《北京青年》における展開と“世界上最遥远的距离, 不是你在天涯我在海角, 而是我站在你旁边, 你却在那儿玩儿手机”という命題表現に秘密が隠されている。つまり、発話者は聞き手である“丁香”に対して酷く好意を抱いていたが、一向に受け入れられずにいた。故に、(69)の“而是我站在你旁边, 你却在那儿玩儿手机”の表現からも分かるように、この時、発話者は“丁香”と身体的距離が近いにも関わらず、その二人の心的距離は依然として天地の差があったと感じたのである。換言すると、発話者は、“丁香”は発話者とはかけ離れた所において“玩儿手机”という行為を行っているという感覚に見廻れたのである。それが故、発話者は、“你玩儿手机”が発話者の真横で行われているにもかかわらず“那儿”を用いたと解しえる。従って論理式を使用すると、

(70) 弄ル ～ガ ～ヲ 存在スル ～ガ ～ニ

在' [你, 那儿, 玩' (你, 手机) & 在' {玩' (你, 手机), 那儿}]

アル ～ガ ～ニオイテ ～トイウ様態ニ

といった表記となる。この式は“玩' (你, 手机)”が「君が携帯を弄る」という意を表し, “在' {玩' (你, 手机), 那儿}”が「それ(君が携帯を弄る)があそこに存在する」という意を表し, “在' [你, 那儿, 玩' (你, 手机)&在' {玩' (你, 手机), 那儿}]”が「君が, あそこにおいて, 君が携帯を弄り、かつそれ(君が携帯を弄る)があそこに存在するという様態にある」という意味を表している。

2.4 第二章の結び

本章は[進行]の意味を表す“在”構文を,

- ① 出来事地点が既知の情報と見なされて目的語が省略された“在”構文
- ② 出来事地点が特定化できずに目的語が省略された“在”構文
- ③ 目的語が生起した“在”構文

の三つに分けて論じ, 副詞の“在”は, 意味上, 前置詞の機能を兼ね備えていることを多くの実例と論理式によって証明した。つまり, 副詞“在”は場所の意を表す成分が後続しないが, それは“在”に後続する目的語が省略されたと見なすのである。

また, 前置詞“被”、“给”, および“正在”が生起した文も目的語が省略された例として考察を行い“在”の目的語省略現象の傍証とした。

注

- 1) 本章は青木(2013a)の『現代中国語の統語成分“在”の用法と意味』を基に再考したものである。
- 2) 前置詞の“在”が生起した文も[進行]の意を示しえると判断した理由は以下の研究者による見解を基にした。

まず, 丁声树等(2009(1961):111)は“我在床上看书”(私はベッドで読書をしている)という文は「人がベッドに存在し、読書をするもベッドに存在する」と述べている。故に“我在床上看书”には二つの意を含んでいると理解できる。次に李华倬(2010:92-93)は“我在教室读书”(私は教室で勉強をしている)に対して以下のような見解を有している。「“我在教室”と“我在读书”は合併して“我在教室读书”となれる。“我在教室”と“我在读书”の“在”は同じ様な意味を有するので, 合併後の文ではただ一つの“在”を用いればよい。」また, 李华倬(2010:95)では“我在教室读书”(私は教室で勉強をしている)という文は「ちょうど[進行]しているという時態を表わすが, 同時に存在の意味も有している。」と指摘した。

更に范继淹(1982:75)と张斌主编(2001:684)では, “在”は副詞と前置詞の二役

を担っていることを主張している。そこで張斌主编(2001:684)における記述を表表として挙げると、「“他在(副詞)在(前置詞)黑板上写字”(彼は黑板に字を書いている)」という時、二つの“在”は合わさって一つになり“他在黑板上写字”という。」と述べている。

また、第一章で言及したように、張斌主编(2001:684)は副詞“在”の用例として“吉普车在公路上颠簸着,急驶着”(ジープ車は道路において揺れながら疾走している)という文を、そして馬真(2004:160)は“以后,我在跟人家说话时,你最好别插嘴。”(今後私が人と話をしているときは、無駄口を挟まないでください。)

という文を挙げている。通常これらの“在”はともに前置詞として見なされるが、この二つの文における動詞はいずれも[持続]の意味特徴を保持しており、文全体は確かに[進行]の意を表していると思なされる。よって、前置詞の“在”が生起した文も[進行]の意味を示すことができると理解できる。

3) Chao(2011(1968):353-358)では「V1 - V2の下位意味はV1で決定される」と述べ、多くの用例を挙げている。その内、“在”、“从”、“到”、“打”、“离”、“往”、“对”、“向”、“给”、“替”、“为”、“跟”、“比”、“叫”等がV1として生起している。そのため、これらの成分は、述連構造全体から見ると、V1の役割を担い、かつ、V2の意味を支配していると考えられる。故に、本論文で、V1を担う前置詞“给”、“被”、“在”の作用域がV2の作用域よりも広いと考えて論理表記を行うことは妥当な分析であると言える。

また、朱德熙(1982:160)は「中国語の前置詞は多くが動詞の性質を有している。従って、前置詞は述詞とは見なさないが、“前置詞+目的語+述語性成分”の形式は、述詞によって構成される述連構造の性質にきわめて近い。故に、述連構造の一種であると思なしてよい。」と述べている。重要なことは、前置詞単独ではなく、“前置詞+目的語+述語性成分”という構造全体から見た際に、その前置詞は述連構造のV1と同様の役割を果たす、と推測しえることである。

4) ここでの“怀上”は“怀”と“上”を分けてより厳密に“怀’(你,孩子)&有’{怀’(你,孩子),上}”と分析できるが、煩雑になり論点がずれるので簡略表記した。以下の論考で表す論理式(第三章から第七章までを含む)の分析においても、論点に影響が生じない場合、便宜を図り簡略表記を行うこととする。

5) 本章の論理式における括弧は“()”、“{ }”、“[]”、“【 】”の四つを使用する。そして“()”が最も作用域(scope)が狭く、“【 】”が最も作用域が広いと仮定する。即ち下記の(a)のように考える。

(a) () < { } < [] < 【 】

(a)は、“()”は“{ }”より作用域が狭く、“{ }”は“[]”より作用域が狭く、“[]”は“【 】”より作用域が狭いことを表している。

6) 論理式の生成原理については第三章でより詳しく論じる。

第三章 “在” 構文の生成過程¹⁾

3.0 はじめに

第二章では[進行]の意味を表す“在”構文を命題論理と述語論理を併用した論理式によって解析した。本章では論理式の整合性の向上を図るため，[進行]の意を示す“在”が生起した“你在这等我”（小説《致命的温柔》95頁）の部分オートマトン(automaton)、状態遷移図(state transition diagram)、論理回路(logical circuit)、タイプ理論(type theory)に当てはめて考察する。そして最後には談話概念から論理式の生成過程を検討する。次節ではオートマトンを用いた解析を行う。

3.1 オートマトンによる解析

オートマトンとは何かを簡潔に紹介するために，まずオートマトンについて適切な解説が見られる小倉(1996)の記述を引用する。

「オートマトン(automaton, 複数形は automata)は，情報科学では抽象的な有限状態の順序機械であるが，もともとの意味は，オルゴールとともにヨーロッパで発達してきた華麗な自動人形である。オートマトンはさまざまなものが提案されている。当初は人工知能の研究対象として考えられてきた。さまざまな知的な振舞いをする抽象的な自動機械のモデルとして考えられていたのである。ここで対象としているオートマトンは，記号処理システムとしてのコンピュータのモデルになっており，より抽象化された意味で言語を対象とする機械である。」（小倉1996:83）

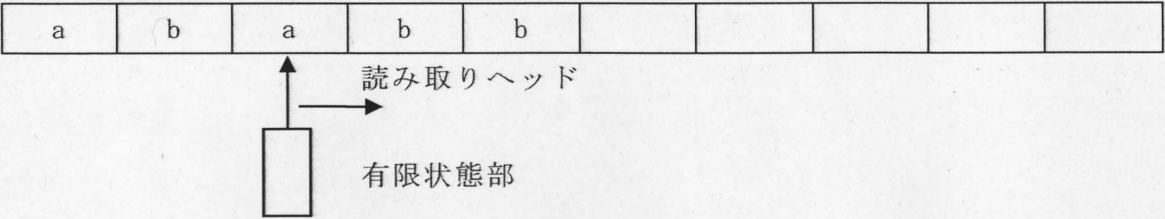
また，小倉(1996)は以下のようにも述べている。

「オートマトンの分野は理論としては形式言語理論から計算理論まで広範にわたるが，実際の応用としてもプログラミングやシステムの設計など広い範囲で，知識の表現方法としてもさまざまに使われている。」（小倉1996:83）

そして小倉(1996:89)はオートマトンのモデルを次の(1)のように図示した。

(1)

入力テープ

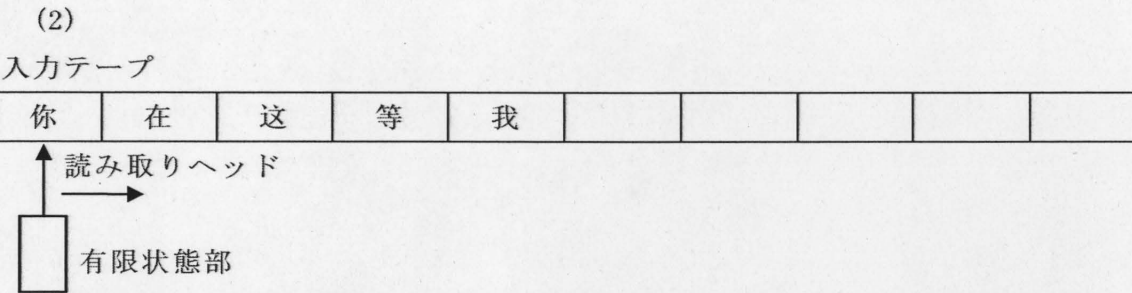


この図について説明しよう。メモリ状の長方形は「入力テープ」という。入力テープはマスによって分けられており，このマスの中に文字が入力されることになる。その際，文字は一マスにおいて一つしか入力することができない。なお，

本章では“你在这等我”を解析するので，“你”を入力開始地点であると仮定する。

縦に延長している矢印は「読み取りヘッド」という。これは文字を読み取る役割を果たすので、入力テープの最も左側のマスから読み取っていくことになる。従って、横に伸びる矢印は読み取りヘッドの移動方向を示している。つまり、左から文字の読み取りが開始すると、右へと一マスずつヘッドが移行し、一つずつ文字を読み取っていくのである。故に、読み取った文字を保管する場所が必要となる。それは縦に伸びる長方形がその役割を果たしている。これを「有限状態部」と呼ぶ。有限状態部は入力データを受け取ると、そのデータを保管して情報を処理する機能を果たす。従って、文字を読み取ると有限状態部にはその文字のデータが蓄積されることになる。

以上からオートマトンは言語の解析にも応用することができると考えられる。そこで(1)をヒントにして“你在这等我”(あなたがここで私を待っている)を実際にオートマトンに当て嵌めてみることにしよう。(2)を見られたい。

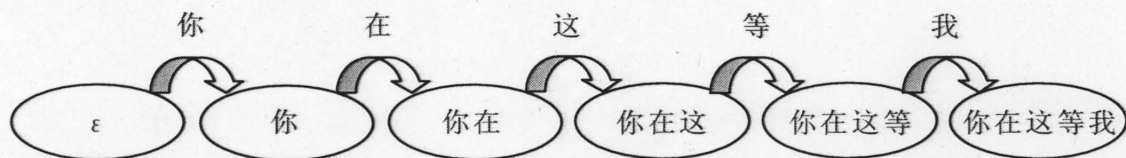


この図から“你在这等我”は“你”から読み取りが始まって、その後、“在”、“这”、“等”、“我”と読み込まれていくことが想像できる。それに伴って、有限状態部はその文字の情報をすべて受け取ることになる。つまり、“你”が“你在”、“你在这”、“你在这等”、“你在这等我”と次第にデータが蓄積されていくのである。そして読み取りが“我”まで到達すると“你在这等我”が完成し、かつ、その文字が全て有限状態部に蓄積されていることになる。ところがここで一つの疑問が生じる。それは、有限状態部では如何なる操作が行われているのか、ということである。つまり、オートマトンの運用によって“你在这等我”をひとつずつ読み取っていくことは分かったが、そのプロセスにおいて生じたデータ処理が如何なるものかについては明らかではない。そこで新たなモデルとして、次節では状態遷移図を運用してみることにしたい。

3.2 状態遷移図による解析

状態遷移図を用いると“你在这等我”は以下の(3)のように示すことができる。

(3)

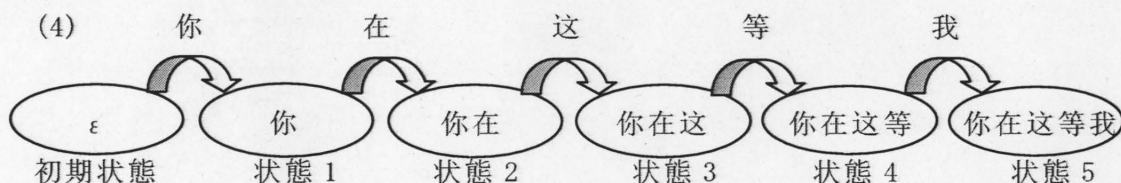


この図から“你在这等我”の生起プロセスをより詳しく理解することができる。
“你”から読み取りが始まり，“在”、“这”、“等”、“我”が順番に加わって、最終的には“你在这等我”が完成することになる。オートマトンと異なるのは、文字が読み取られたときに、蓄積されたデータがその度にはっきりと図示されているということである。これは内部記憶(internal memory)によって実現される。実際に我々が一つの文を発話する際にも、脳内においてこれと同じような情報処理を行っているといえる。つまり、論理上、前に発話した文字のデータを記憶することができなければ、一つのセンテンスを造ることができないのである。従って、状態遷移図は文の生起プロセスを分析するモデルとしてとても有効であるといえる。

なお、この状態遷移図において用いられる記号にはすべて読み方がある。(3)における五つのアーチ形の矢印は「有向辺」という。その各矢印の上にある文字(“你”、“在”、“这”、“等”、“我”)は状態遷移する成分である。従って、有向辺は状態遷移する成分の遷移方向を指示する役割を担っていることが分かる。また、六つの大きな楕円は「節点(node)」という。そして、この円の中にある成分を「状態」と呼ぶ。つまり、この中に読み取った情報が反映されるのである。また、ギリシャ文字のエプシロン“ ϵ ”は「ラベル」と呼び、初期状態の始点であることを意味している。即ち「空記号」の役割を果たしている。

では、これらの読み方を念頭に置きながら、改めて“你在这等我”の生起プロセスを辿ってみよう。“你在这等我”の生起プロセスは“你”、“你在”、“你在这”、“你在这等”、“你在这等我”である。故に、“你在这等我”は五回状態が遷移するということが分かる。すると、遷移の回数に比例して節点の中にある状態も五つ存在することになる。

そこで、“你”を状態1，“你在”を状態2，“你在这”を状態3，“你在这等”を状態4、そして“你在这等我”を状態5と称し、以下(4)の図を用いて詳しく検討していくことにしたい。



まず ϵ が初期状態に存在する。そして“你”という情報が読み取られると、この初期の状態にある ϵ が“你”と結びつき一つ目の節点に遷移して“你”という状態が完成する。これが状態 1 である。

次に、この状態 1 である“你”に“在”が加わって、次の節点へと遷移すると、“你在”という状態ができ上がる。これが状態 2 である。

そして、状態 2 の“你在”に“这”が加わると、更に右の節点へと状態が遷移して状態 3 が形成される。即ち、“你在这”という状態が成立する。

更に、“你在这”である状態 3 に“等”が追加されると、次の節点へと状態が遷移して“你在这等”という状態が構成される。これが状態 4 ということになる。

最後には、この“你在这等”という状態 4 に“你”が加わり次の節点へとその状態が遷移すると、“你在这等我”となり状態 5 が完成する。

上記の分析から“你在这等我”という文を状態遷移図に基づいて詳しく解釈することができた。なお、このように情報を一つずつ処理していく手法は「カリー化」(currying)に倣っていると見なすことができる。では、以上を踏まえて、次節ではより厳密なる解析に迫ることにしよう。つまり、論理回路の運用へと到ることになる。

3.3 論理回路と論理式による解析

本節では“你在这等我”の生起過程を下記の(5)と(6)のモデルを通じて考えることにしたい。(5)は“你在这等我”の論理回路、(6)は論理回路に基づく論理式である。

(5)

你
你在
你在这
你在这等
你在这等我
①②③④⑤

(6)

- ①' 你
- ②' 在' (你,
- ③' 在' (你, 这
- ④' 在' (你, 这, 等' (你,)&在' (等' (你,), 这))
- ⑤' 在' (你, 这, 等' (你, 我)&在' (等' (你, 我), 这))

この二つのモデルによって、“你在这等我”が生成されるまでの過程を論理的に

解釈することができる。つまり、“你”から“我”に到るまでの過程において、発話者の脳内において如何なる言語的演算が行われていたのかを表しているのである。以下、(5)と(6)を対比させながら“你在这等我”の生成プロセスを確認していくことにしよう。

まず論理回路を示す(5)の①を見られたい。この(5)の①は発話者が“你”と発話することによって、“你”が現れたと考える。従って、(6)の①’は“①’你”となる。この時点での論理式は“你”という個体の出現を示すだけであり、具体的な意味は読みとれない。

そこで次に、(5)の②が示すように、“你”の後に続けて“在”が話されると、“你”に続いて“在”の意味が蓄積される。従って、“你”がある場所に存在する」という意味が生じる。つまり、“在”が現れたということは、「存在する」という様態にある人物とその人物が存在する場所が導き出されることになる。そこで論理式では(6)の“②’ 在’ (你,”のように記述される。しかし、この段階では“你”が存在する場所がまだ分からないので、「あなたがある場所において存在する」という解釈に止まっている。なお、(6)の“②’ 在’ (你,”において、“在”は述語となるので、その記しとして“在”の右上にプライム“’”を付記することにする。

そして、“在”は述語として、“你”という個体とその“你”が存在する場所との関係を規定させる役割を果たすので、数学的にいうと、“在”は函数、“你”は定項といえる。故に、“你”と“在”は、半小括弧“(”を使って、“在”と“你”を区別する。また同時に、“②’ 在’ (你,”では、“在”が生起したことにより、“你”の存在場所が必要となるので、“在’ (你”の後にカンマ“, ”を記し、この後で“在’ (你,”の後方には場所を表す成分が伴うことを表示している。

次に、(5)の③を見られたい。“这”が発話されると“你在这”に“这”という情報が加わって“你在这”となる。これによって前段階において不明瞭であった“你”の存在場所が定まったことが分かる。よって、(6)における③’の論理式は“在’ (你, 这”となる。ここで確認しておきたいことは、この時点の論理式は“在’ (你, 这”なので、その命題表現は“你在这”である。故に、ここでの“在”は品詞でいうと動詞であることが分かる。

さて、今度は(5)における④のように、“你在这”に“等”が加わると、(6)における④’の論理式が完成する。ここが重要な箇所である。つまり、“你在这”に“等”「待つ」という動詞の意味が追加されると、それに伴って“等”という行為を行う対象が想定されて、“等’ (你,)”が出来上がる。また、“等”は述語であるため、プライム“’”と半小括弧“(”が“等”の右横に添えられる。そして、既述したように、この“等”という動作行為は“这”で行われていることが分かるので、④’では“在’ (等’ (你,), 这)”という論理式も同時に表示される。故

に、“等’(你,)&在’(等’(你,), 这)”が形成される。この際、連言(conjunction)を示す“&”を用いて、“等’(你,)”と“在’(等’(你,), 这)”が、論理上、同時に成立していることを表わす。留意されたいのは、連言は前件と後件を自由に入れ替えることができるので、“等’(你,)”と“在’{等’(你,), 这)”は前後を入れ替えて“在’{等’(你,), 这}&等’(你,)”と記述することもできる。しかし、“等’(你,)”は“在’{等’(你,), 这)”の第一項に置かれ連鎖関係を構築している。言い換えると、両命題は演繹モデルを形成し、“在’{等’(你,), 这)”は“等’(你,)”を下位範疇化(subcategorization)している。故に“等’(你,)”は意図的に“在’{等’(你,), 这)”の前に置くことにする。

さて、次に、“等”は他動詞なので必ず“等”の対象物を表わす成分が必要である。従って、“你”の右横にコンマ“,”と小括弧“)”を付記し、“等”の対象物となる成分の生起が必須であることを表わしている。しかし、この地点では、“你”が“这”という地点において、“你”が何に対して“等”という行為を行っているのかが分からない。そこで、(5)の⑤が示すように、発話者は空かさず“我”を発話するに到る。故に、“你在这等我”という命題表現が形成される。

そこで再度(6)における⑤’の論理式を見られたい。この論理式は四つの述語が生起しているのに気づく。即ち、

- (a) “在’(你, 这, 等’(你, 我)&在’(等’(你, 我), 这))”の一番左にある“在”。
- (b) “在’(你, 这, 等’(你, 我)&在’(等’(你, 我), 这))”の中に埋め込まれている“在’(等’(你, 我), 这)”の“在”。
- (c) “在’(你, 这, 等’(你, 我)&在’(等’(你, 我), 这))”の中に埋め込まれている“等’(你, 我)”の“等”。
- (d) “在’(你, 这, 等’(你, 我)&在’(等’(你, 我), 这))”の中に埋め込まれ、更にその中の“在’(等’(你, 我), 这)”に埋め込まれている“等’(你, 我)”の“等”。

である。これら四つの命題において各述語(“在’ ”、“在’ ”、“等’ ”、“等’ ”)が制御する作用域(scope)はそれぞれ異なっている。最も広い作用域を持つ述語は(a)において述語となっている“在’ ”である。二番目は、(b)において述語の役割を担っている“在’ ”である。そして、最も小さい作用域を持つ述語は、(c)と(d)における“等’ ”である。従って、各命題の述語が発揮する作用域の違いを明示するために、括弧の種類を変えて以下のように論理式を修正することにしたい。²⁾

(7) 待ツ ～ガ ～ヲ 存在スル ～ガ ～ニ

在’ [你, 这, 等’(你, 我) & 在’ {等’(你, 我), 这}]

アル ～ガ ～ニオイテ ～トイウ様態ニ

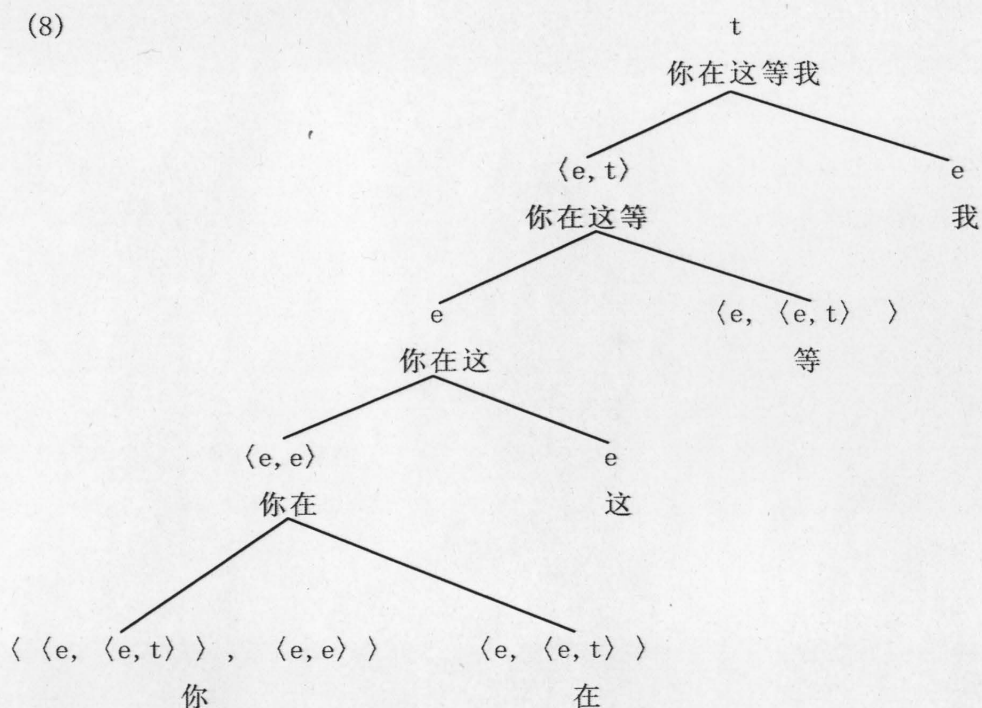
これで“你在这等我”の生起プロセスを論理回路と論理式を用いて厳密に解釈

することができた。

3.4 タイプ理論による解析

本節ではタイプ理論を運用して“你在这等我”を分析してみることにする。これまでのオートマトン、状態遷移図、そして論理回路と論理式を用いた解析は、いずれも“你在这等我”を“你”からひとつずつ順番に読み込んで、“你在这等我”に含まれる命題内容をひとつずつ処理しながら、“你在这等我”の生成過程を明示した。しかし、タイプ理論では、文頭からの生起プロセスのみならず、反対に、完成した一つの文がひと文字ずつ解体されていく過程も見ることができる。

そこで“你在这等我”をタイプ理論によって表記すると以下のように分析することができる。(8)を見られたい。



この式は(8)の一番上から俯瞰すると、“你在这等我”がタイプ理論の規定に基づいて、“你在这等我”の末にある“我”から順にひとつずつ分離していく様子が見て取れる。一方、(8)を下から見ていくと、“你”から“你在这等我”が完成するまでの過程を観察することができる。その過程を詳しく解説すると以下のとおりになる。

まず、“你”が“在”と結合すると“你在”となる。これは即ち“在”を表す式である“<e, <e, t>>”が“你”を表す“<<e, <e, t>>, <e, e>>”に入力されると、“你在”を表す“<e, e>”が完成するということである。

次に、“你在”が“这”と結合すると“你在这”となる。つまりこれは，“这”を表す“e”が“你在”を表す“ $\langle e, e \rangle$ ”に入力されると，“你在这”を表す“e”が完成するということである。

そして，“你在这”が“等”と結合すると“你在这等”となる。即ち，“等”を表す“ $\langle e, \langle e, t \rangle \rangle$ ”が“你在这”を表す“e”に入力されると“你在这等”を表す“ $\langle e, t \rangle$ ”が形成されるということである。

最後に“你在这等”が“我”と結びつき“你在这等我”が出来上がる。つまり，“我”を表す“e”が“你在这等”を表す“ $\langle e, t \rangle$ ”に入力されると，“你在这等我”を表す“t”となる。

以上のように(8)を下の“你”からボトムアップ的に見ていくと、正にオートマトン、状態遷移図、論理回路のように、読み取りと内部記憶によって文字を蓄積しながら“你在这等我”の生成過程をひとつずつ辿ることになる。つまり，“你”が“在”と結合して“你在”となり、次にその“你在”が“这”と結合して“你在这”となる。そして“你在这”が“等”と結合して“你在这等”となり、最後には“你在这等”が“我”と結びついて“你在这等我”が完成するといったプロセスを踏んでいる。なお、当然ながら、以上の(8)のように分析することができたのは任意的なものではなく、タイプ理論の規定に基づいている。

そこで(8)の式がそれぞれ何を意味するのかを説明しよう。

方立(2000:94-95)の解説に基づく、名詞と代名詞は“e”で表し、他動詞は“ $\langle e, \langle e, t \rangle \rangle$ ”によって表される。そして，“e”は個体定項を表わし，“t”は式、即ち文全体を示している。また、方立(2000:90)によると、全ての山括弧“ $\langle \rangle$ ”を伴う派生タイプは一定の内部結合を有しており、順序付きペア(ordered pair)となる。よって“ $\langle e, t \rangle$ ”は“ $\langle t, e \rangle$ ”と等しくないことが分かる。つまり、全ての派生タイプは以下のように解釈される。

(9) 派生タイプ = \langle インプットタイプ, アウトプットタイプ \rangle

括弧されたものを派生タイプ、或いは複合タイプ(complex type)という。“ $\langle e, t \rangle$ ”の“e”はインプットタイプ(input type)，“t”をアウトプットタイプ(output type)という。

故に、方立(2000:89)は以下のように定義した。

(10) a. e は論理タイプである。

b. t は論理タイプである。

c. もし a が論理タイプで、b も論理タイプなら、 $\langle a, b \rangle$ は論理タイプである。

d. 上記の a、b、c によって生成する論理タイプ以外、他はすべて論理タイプではない。

次は、タイプ論理において用いられる一項述語、二項述語、三項述語について説明しよう。ここで述べる述語は、論理式における述語とは異なるので注意が必要である。

まず、一項述語は“ $\langle e, t \rangle$ ”によって表される。この一項述語である“ $\langle e, t \rangle$ ”は個体定項の“ e ”と結合して式“ t ”を生成する。

次に、二項述語は“ $\langle e, \langle e, t \rangle \rangle$ ”によって表される。この二項述語である“ $\langle e, \langle e, t \rangle \rangle$ ”は個体定項の“ e ”と結合して一項述語“ $\langle e, t \rangle$ ”を生成することができる。そして、その一項述語“ $\langle e, t \rangle$ ”は更に個体定項“ e ”と結合して式“ t ”が生成される。

三項述語は“ $\langle e, \langle e, \langle e, t \rangle \rangle \rangle$ ”によって示される。この三項述語である“ $\langle e, \langle e, \langle e, t \rangle \rangle \rangle$ ”は、まず、個体定項“ e ”と結合して二項述語“ $\langle e, \langle e, t \rangle \rangle$ ”を生成する。次に、その二項述語の“ $\langle e, \langle e, t \rangle \rangle$ ”は、更に個体定項“ e ”と結合して一項述語“ $\langle e, t \rangle$ ”を生成する。最後にその一項述語である“ $\langle e, t \rangle$ ”は個体定項“ e ”と結合して式“ t ”を生成する、といった過程を経る。

方立(2000:90)は「インプットタイプとアウトプットタイプはいずれも派生タイプである可能性があり、派生タイプの内部構造が如何に複雑であっても、常に二項関係を保つ」と述べている。これはタイプ理論が見せる強力な理論である。これによって、一つの文を常に二分割して解析することが可能となるのである。要するに、この二分割の操作は本章で運用したオートマトン、状態遷移図、論理回路における解析を多角的に肯定し、同時に論理式の整合性を証明していると言える。

3.5 談話概念を導入した論理式の生成過程

第二章で命題論理と述語論理を併用した論理式による分析を試みたが、これは前置詞“給”、“被”、“在”が、意味上、文の核を成す述語として、三つの個体の関係を定めている、と考えたものである。つまり、これらの前置詞は“ α ”、“ β ”、“ γ ”という三つの項をとる函数であるとした。そこで本節では新たな視点から論理式の生成過程を提案したい。即ち、まず“ γ ”の部分が先に完成し、その後、“ α ”、“ β ”が生成される、と考えるのである。そこで再度“你在这等我”の文を例として用いる。この文には如何なる意味が含まれているだろうか。まず直観的に一つ挙げるとすれば、“等”によって構成される“你等我”「あなたが私を待つ」を選ぶのが妥当であると言える。従ってこれを論理表記すると、

(11) 等' (你 , 我)

待ッ ~ガ ~ヲ

となる。“等' (你, 我)”は「あなたが私を待つ」という意味を表している。そして、統語上、“你在这等我”における“等”の前方には“在这”が生起しているの

で、(11)の式に“在这”の意味情報を加えると、以下のような式となる。

(12) 等’ (你, 我) & 在’ {等’ (你, 我), 这}

待ツ ~ガ ~ヲ 存在スル ~ガ ~ニ

“等’ (你, 我)”は「あなたが私を待つ」という意味を表し, “在’ {等’ (你, 我), 这}”は「それ(あなたが私を待つ)がここに存在する」の意を示している。

そして(12)の式に談話概念が加わると以下のような論理式が考えられる。

(13) 待ツ ~ガ ~ヲ 存在スル ~ガ ~ニ

在’ [你, 这, 等’ (你, 我) & 在’ {等’ (你, 我), 这}]

アル ~ガ ~ニオイテ ~トイウ様態ニ

(13)と(12)の違いは“等’ (你, 我)&在’ {等’ (你, 我), 这}”の式に“在”、“你”、“这”といった三つの成分が加わっていることである。そこで次に, 考察の便宜を図り, (13)の式を四つ(A、B、C、D)に区分する。つまり“在”と“你”と“这”と“等’ (你, 我)&在’ {等’ (你, 我), 这}”である。より分かりやすくさせるため, 以下のように示そう。

(14) 在’ [你, 这, 等’ (你, 我)&在’ {等’ (你, 我), 这}]

A B C D

“A”は“在’ ”を指し, “B”は“你”を指している。そして, “C”は“这”を指し, “D”は“等’ (你, 我)&在’ {等’ (你, 我), 这}”を指示している。

そして, (14)で“A”の“在’ ”と“B”の“你”, そして“C”の“这”が現れているのは談話概念によるものだと考える。

まず“A”の“在’ ”は述連構造における一番目の動詞として“D”における“等’ ”よりも広い作用域を有していると理解するが, これは“D”において“在”が一度生起したが故, “A”の位置で再び使われた, と考える。“A”で“在”が使用された理由は, “B”の“你”と, “C”の“这”と, “D”の“等’ (你, 我)&在’ {等’ (你, 我), 这}”の関係を規定するためである。そこで“B”と“C”が何故用いられることになったのかを説明する必要がある。それは, “你在这等我”では“你”が主要話題を, “这”が副話題を表しえると判断したからである。即ち, (13)の式は, (12)の式(即ちDの式)に談話概念が導入されたことを意味するので, “你”が“B”へ, “这”が“C”へ生起しえるのは, “B”の“你”と“C”の“这”が共に“D”において既に使用されたからである, と考えられる。³⁾

以上が談話概念の視点から見た“你在这等我”の論理式の生成過程である。

3.6 第三章の結び

本章は[進行]の意味を示す“在”によって構成された“你在这等我”の論理式の整合性を高めるため, オートマトン、状態遷移図、論理回路, 更にはタイプ理論を運用して解析した。最後には談話概念の視点から論理式の生成プロセスを検

討した。

注

1) 本章は青木(2013c)の『時態成分“在”の生成過程』に対して大幅に加筆、修正を行ったものである。

2) 本章の論理式における括弧は“()”、“{ }”、“[]”の三つを使用する。そして“()”が最も作用域が狭く、“[]”が最も作用域が広いと仮定する。即ち下記の(a)のように考える。

(a) () < { } < []

(a)は、“()”は“{ }”より作用域が狭く、“{ }”は“[]”より作用域が狭いことを表している。

3) 徐烈炯(2002)は文頭の位置に生起する成分は“主話題”，そして主語と動詞の間に生起する成分を“次話題”と主張した。例えば，徐烈炯(2002:404)で挙げられた“烈性酒老张不喝。”(きつい酒は張さんは飲まない。)における“烈性酒”は“主話題”であり，一方，“老张烈性酒不喝。”(張さんはきつい酒は飲まない。)における“烈性酒”は“次話題”であると見なした。従って，本稿では以上の見解を参考にして，“在”の前方に位置する成分を主要話題(“主話題”)，そして“在”の目的語，即ち，主語と動詞の間に生起してその文の出来事の存在場所を表現する成分を副話題(“次話題”)と見なすことにする。

第四章 [現場進行]における副詞“在”と[非現場進行]における副詞“在”¹⁾

4.0 はじめに

第一章で言及したように、王还主编(1997:1103)は副詞“在”を二つに区分した。一つは、「動作の持続が絶えず進行していることを表わす。」である。いま一つは、「ある範囲において活動していることを強調する。しかしそれは動作が進行の状態にあることを記述しているわけではない」である。そこで本章では、この王还主编(1997:1103)の見解をヒントに、副詞の“在”が生起する文を[現場進行]と[非現場進行]の二タイプに区分して考察を行う。

要点は以下の三点である。

第一に、[現場進行]の文は、出来事が発話時間において存在している点に注目が置かれた[進行]であり、一方[非現場進行]は、発話時間に制限されず、出来事が複数存在している点に着眼した[進行]である。

第二に、[現場進行]の文の出来事地点は発話者が把握した特定の地点であり、[非現場進行]の文の出来事地点は複数に及び、一つの出来事地点を明示できないということである。

第三としては、[現場進行]の文は出来事の多発を保証する成分が生起しないが、[非現場進行]の文には出来事の多発を保証する“最近”、“現在”、“每天”、“一天到晚”、“一直”、“六年”といった成分が生起するということである。

4.1 [現場進行]を表す“在”

まず[現場進行]を表すと見なしえる“在”の例を五つあげて解析を行う。[現場進行]とは発話時間における[進行]である。つまり、発話時間において出来事が特定の場所において存在している、ということである。まず(1)の例を見られたい。

- (1) 我的手机在响, 手机在楼上包里呢。(テレビドラマ《温柔的背叛》第27話)
(俺の携帯が鳴っている。携帯は二階の鞆の中だ。)

この文の“我的手机在响”における“在”は[現場進行]の意を表わすと考えられる。まずこの用例がいかなる場面において発話されたのかを簡潔に述べることにしよう。このシーンは、ある晩、豪邸に住む主人と妻がリビングで寛いでいると、突如携帯電話が鳴り出す。すると主人は、自分の携帯が二階で鳴っているのに気付く。“我的手机在响, 手机在楼上包里呢”と発話して急いで二階へと向かうことになる。そこで注目されたいのは、“我的手机在响”の後に生起する“手机在楼上包里呢”である。これによって、“我的手机在响”は“楼上包里”において生じていると理解できる。つまり、発話者が携帯電話の着信音を聴くことによって、“我的手机响”という出来事が“楼上包里”において存在していると知覚したのである。故に、ここでの“在”は[現場進行]であると見なしえる。これはドラマ

《温柔的背叛》を見ると“我的手机响”という出来事の臨場性を鮮明に感じとることができる。

重要なことは、“我的手机在响”の動詞“响”は[持続]の意味特徴を有し、かつ“我的手机在响”には“响”の[持続]を[終息]させる成分が生起していないということである。従って、“我的手机在响”における動詞“响”の[持続]の意味特徴が[進行]の表現を導いていると理解できる。²⁾

また、この“我的手机在响”において生起する“在”は場所を示す目的語を伴っていないが、(1)を見ると、“我的手机在响”の後方には“手机在楼上包里”という命題表現があるので、“我的手机在响”の出来事地点は“楼上包里”であると見なしえる。故に、“我的手机在响”に含まれている意味は、「私の携帯が、二階の鞆の中において、私の携帯が鳴っている」となる。そこで以上の考察を踏まえて、“我的手机在响”に含まれている意味を命題論理と述語論理によって表記してみることにしよう。³⁾

(1a) 鳴ル ～ガ 存在スル ～ガ ～ニ

在' [我的手机, 楼上包里, 响] (我的手机)&在' {响' (我的手机), 楼上包里}]
アル ～ガ ～ニオイテ ～トイウ様態ニ

この論理式は“响' (我的手机)”が「俺の携帯が鳴る」という意味を表し、“在' {响' (我的手机), 楼上包里}”が「それ(俺の携帯が鳴る)が二階の鞆の中に存在する」という意味を表し、“在' [我, 楼上包里, 响' (我的手机)&在' {响' (我的手机), 楼上包里}]”が「俺の携帯が、二階の鞆の中において、俺の携帯が鳴り、かつそれ(俺の携帯が鳴る)が二階の鞆の中に存在するという様態にある」という意を表している。

次は(2)の“我打车”という文における“在”が[現場進行]であることを証明する。

(2) 我在打车! (テレビドラマ《张小五的春天》第2話)

(私はタクシーを拾っているのよ!)

この(2)の引用先であるテレビドラマ《张小五的春天》によると、この場面は酒に酔った発話者が一人でタクシーを拾っている所である。よって、“我在打车”における“在”は[現場進行]を表すと考えられる。この文における動詞の“打”は論理的な観点からいうと、[終息]することなく[持続]する特徴を有している。そして“我在打车”における“车”は具体的な数量情報が含まれておらず、“打”の動作量を[終息]させることができないので、“打”が表わす[持続]の意味特徴が[進行]の概念を可能にさせていると考えられる。

また、ドラマ《张小五的春天》を確認すると、この(2)の場面における“我打车”という行為は、発話者が存在している一つの場所に限られて行われているの

で、“在”の目的語は“这儿”であると考えられる。従って、“我在打车”が表す意味は「私が、ここにおいて、私がタクシーを拾っている」と解釈すると、

(2a) 拾ウ ～ガ ～ヲ 存在スル ～ガ ～ニ

在' [我, 这儿, 打' (我, 车) & 在' {打' (我, 车), 这儿}]

アル ～ガ ～ニオイテ ～トイウ様態ニ

といった式となる。この論理式は“打' (我, 车)”が「私がタクシーを拾う」という意味を表し、“在' {打' (我, 车), 这儿}”が「それ(私がタクシーを拾う)がここに存在する」という意味を表し、“在' [我, 这儿, 打' (我, 车)&在' {打' (我, 车), 这儿}]”が「私が、ここにおいて、私がタクシーを拾い、かつそれ(私がタクシーを拾う)がここに存在するという様態にある」という意を表している。

今度は(3)の“我知道你在听着”(僕は君が話を聞き続けていることを知っている)における“在”が[現場進行]であることを明瞭にさせよう。

(3) 我知道你在听着, 而且都听进去了。好妹妹, 你连死都不怕, 难道还怕挺起胸膛活着? (テレビドラマ《京华烟云》第32話)

ここでは“你在听着”に焦点を当てて論じる。この“你在听着”の“在”は[現場進行]を表している。ドラマ《京华烟云》を視聴すると、実際に“你听着”が一カ所で起こっていることが分かる。従って“你听着”の出来事地点は“这儿”であるとし、“你在听着”に含まれている命題内容は「あなたが、ここにおいて、あなたが僕の話の聞き続けている」と解釈しえる。

また、“听”という動詞は[持続]の意味特徴を有し、かつ、この後方には[持続]の意を表す時態助詞“着”が生起しているので、“听”の[持続性]が確実に保証されている。よって[進行]の概念が生じえたと見なしうる。

以上の解析を踏まえて“你在听着”を論理式で表現することにしよう。(3a)を見られたい。⁴⁾

(3a) 話ス ～ガ ～ヲ アル ～ガ ～トイウ様態ニ

在' 《你, 这儿, 听' {你, 说' (我, 话)} & 有' [听' {你, 说' (我, 话)}, 着]

聞ク ～ガ ～ヲ

アル ～ガ ～ニオイテ

存在スル ～ガ ～ニ

&在' 【有' [听' {你, 说' (我, 话)}, 着], 这儿】》

～トイウ様態ニ

この論理式は、まず“说' (我, 话)”が「僕が話しをする」という意味を表し、次に、“听' {你, 说' (我, 话)}”が「君がそれ(僕が話しをする)を聞く」という意味を表し、“有' [听' {你, 说' (我, 话)}, 着]”が「それ(君が僕の話の聞き)が[持続]という様態にある」という意味を表している。そして、“在' 【有' [

A: 太太呢?

B: 在客厅, 和几位杭州来的茶商在说话。(テレビドラマ《京华烟云》第 26 話)

(A: 「書斎には木兰と莫愁がまだいるか?」)

(B: 「います。」)

(A: 「うちの妻は?」)

(B: 「奥様は客間にいます、杭州から来た茶商の方々と話をしているところです。」)

問題となる箇所は“在客厅, 和几位杭州来的茶商在说话”である。この文は[現場進行]であると見なす。即ち, (5)の場面において発話者 A と発話者 B が会話を行っているときに“和几位杭州来的茶商在说话”が“客厅”において行われているのである。この(5)におけるやり取りは, 実際に《京华烟云》を確認すると, 発話者 B が“和几位杭州来的茶商在说话”という出来事が行われている“客厅”へと指を向けているので, 確かに“和几位杭州来的茶商在说话”の現場性を感じることができる。また“和几位杭州来的茶商在说话”の前には既に“客厅”が生起しているので“和几位杭州来的茶商在说话”の“在”の後の“客厅”は既知の情報として省略されたと考えられる。しかし, 意味上は“和几位杭州来的茶商在说话”における“在说话”は「奥様が, 客間で, 奥様が話をしている」という意味を含んでいると解すべきである。

また, ここでの“说”という動詞は, “话”が後続して「話しをする」という意味を表わすが, “说话”は具体的な動作量が定まっていない。即ち“和几位杭州来的茶商在说话”の文には“说”が有する[持続]を[終息]させる成分が存在しない。よって, “说”自体に備わる無限の[持続]により, [進行]の意を表す“在”の生起条件が充足されたと考えることができる。

では“在说话”の部分に着眼した論理表記を行うことにしよう。

(5a) スル ~ガ ~ヲ 存在スル ~ガ ~ニ

在' [太太, 客厅, 说' (太太, 话) & 在' {说' (太太, 话), 客厅}]

アル ~ガ ~ニオイテ ~トイウ様態ニ

この論理式は“说' (太太, 话)”が「奥様が話をする」という意味を表し, “在' {说' (太太, 话), 客厅}”が「それ(奥様が話をする)が客間に存在する」という意味を表し, “在' [我, 客厅, 说' (太太, 话)&在' {说' (太太, 话), 客厅}]”が「奥様が, 客間において, 奥様が話をし、かつそれ(奥様が話しをする)が客間に存在するという様態にある」という意を表している。

以上(1)から(5)までの用例を全て考察した。本節の終わりに改めて[現場進行]の特徴を確認しておくことにしよう。それは次の二点である。

一つは、[現場進行]は発話時間において生じている[進行]のことを指すということである。いま一つは、[現場進行]は発話時間において生じているので、その出来事地点は発話者が把握した特定の場所において行われているということである。

4.2 [非現場進行]を表す“在”

ここでは[非現場進行]を表す“在”について詳述する。[非現場進行]とは、発話時間に影響されない[進行]のことを指す。故に、出来事が、比較的長期にわたって存在していることを表現することができる。用例は全部で七つある。まず(6)の“我最近在减肥”の箇所における“在”が[非現場進行]であることを証明しよう。

(6) A:好香哦!

B:要不要来点,我老姐做的。

A:不了,我最近在减肥。(テレビドラマ《爱情公寓 第一季》第14話)

(A:いいにおい!)

(B:「ちょっと食べてみない?姉ちゃんがつくったんだよ!」)

(A:「止めとくよ、最近ダイエットしているんだ。」)

ここでは“在”が生起する“我最近在减肥”の一文について集中的に論じる。この文における“在”は[非現場進行]に当てはまる。その理由は二つある、一つは、“最近”が複数の出来事の使用を可能にさせているためである。というのは、“最近”は《现代汉语词典(第6版)》(2012:1741)によると、「発話の前後の遠くない日を指す。」といった記述がなされているためである。つまり“最近”の生起により、一定の時間幅が提供されるので、“我减肥”という出来事が複数存在していると考えられるのである。

“我最近在减肥”の“在”を[非現場進行]として解しえる第二の理由は、この文において生起する“减肥”という行為が[持続]の意味特徴を保持しているからである。従って、(6)の場面では、発話者Aは発話者Bが作った食べ物を“我最近在减肥”といって拒むが、この表現は実際にその地点で“减肥”という行為が行われていることに重点をおいたものではなく、“最近”の範囲において生じた幾つもの“减肥”を纏めて表現したのである。つまり、発話者は、(6)の発話時において、概念上“我减肥”をすべて様態的に捉えて一度に表現したと解しうる。

また、“我最近在减肥”では、“在”の後ろに目的語が生起していない。その原因として考えられるのは、“减肥”は様々な場所で行われるが故、特定の出来事地点をわざわざ指示する必要がないからである。従って、“我最近在减肥”は「(最近という範囲において)僕が、ある場所において、僕がダイエットをしてい

る」という意を包摂していると解しえる。そこで“我最近在减肥”を以下の如く論理表記することにした。

(6a) スル ～ガ ～ヲ 存在スル ～ガ ～ニ
有' 【在' [我, ϕ, 減' (我, 肥) & 在' {減' (我, 肥), ϕ}], 最近】
アル ～ガ ～ニオイテ ～トイウ様態ニ
アル ～ガ ～トイウ範囲ニ

この論理式は“減' (我, 肥)”が「私がダイエットをする」という意味を表し,
“在' {減' (我, 肥), ϕ}”が「それ(私がダイエットをする)がある場所に存在する」という意味を表し,
“在' [我, ϕ, 減' (我, 肥) & 在' {減' (我, 肥), ϕ}]”が「私が、ある場所において、私がダイエットをし、かつそれ(私がダイエットをする)がある場所に存在するという様態にある」という意味を表し,
“有' 【在' [我, ϕ, 減' (我, 肥) & 在' {減' (我, 肥), ϕ}], 最近】”が「私がある場所においてダイエットをしているが、最近という範囲にある」という意を表している。

次の(7)では“我现在在念书”における“在”について考えてみよう。ここでの“在”も[非現場進行]の意を表している。

(7) 小梅, 我现在在念书, 你让家里边知道你怀孕了……(テレビドラマ《夫妻那些事》第17話)

(小梅、俺はいま学生をしているのだから、家の方に君が妊娠したことを知らせてしまったら……)

“我现在在念书”における“在”は[非現場進行]であると見なす。それを根拠づけるものとして、第一に、“現在”が重要な成分として挙げられる。“現在”は《現代汉语词典(第6版)》(2012:1416)によると、「この時、発話の時を指す。時に発話前後の一定の時間を含む。」といった意を表すので、(7)で生起する“現在”が表す意は「発話の時」ではなく、「発話前後の一定の時間」の意を表すと見なしえる。従って“念书”という出来事が存在し続けていることを想像しえる。

次に、この文が[非現場進行]であることを表す最も決定的な根拠は、(7)において、“念书”という行為を具体的に行っていないことである。これは実際にドラマ《夫妻那些事》を確認すると容易に看取できる。

また、論理的にこの“我念书”を[非現場進行]の意として捉えるための前提として重要なことは、“念书”が無限の[持続]という意味特徴を有し、同時に、この“念书”を[終息]させる成分が“我现在在念书”において生起していない、ということである。

なお、“我现在在念书”は“在”の後方に目的語が伴っていないが、“念书”は一定の期間において常にその学生という身分が続いているので、“我念书”がどこで生じているかについては特別明示する必要がないといえる。従って、“我现在在念书”は「(現在という範囲において)僕が、ある場所において、僕が学生をして

では論理式を運用して“我现在在念书”に含まれている意味を論理表記することにしよう。

アル ～ガ ～トイウ範圍ニ

次は(8)の“她現在跟欧阳在交往”における“在”に注目する。ここでの“在”も[非現場進行]の意を表している。

(A:「侮辱するにもほどがあるわ!」)

“她现在跟欧阳在交往”の“在”が[非現場進行]となる理由の第二としては、“他现在跟欧阳在交往”における“现在”が“交往”という出来事の複数の存在を可能にさせているためである。ここでの“现在”は(7)で既述したように、発話時の一点を指示するのではなく、発話時の前後の時間を含んでいるので、出来事の複数の存在を許容することができる。従って、“她现在跟欧阳在交往”の[進行]は厳密に定めると[非現場進行]と見なしうる。